



NPT再検討会議参加 日本被団協・日本生協連代表団（2022年8月3日ニューヨーク国連本部前にて）

「つくる平和」の日常

さらなる前進に向けて



広島県生活協同組合連合会
会長理事 岡村 信秀

1980年代から90年代にかけ、核軍拡（約7万発）と核拡散が加速する中、国際社会では、核兵器の違法性について国際司法裁判所（ICJ）の判断を求める運動が広がり、1996年、ICJは「核兵器の使用・威嚇は一般的に国際法に違反する」と勧告的意見を下しました（2021年「核兵器禁止条約」の発効へと結実）。国

内においては核軍拡競争への危機感から、1970年代後半から日本被団協、全国各地婦連、日本生協連など11の市民団体が思想信条を乗り越え連帯し、核兵器廃絶に向け大きく動き出しました（現在県内市民6団体の連帯へ継承）。

そのような中、今から30年前の1992年8月5日、合唱構成“ぞうれつしゃがやつてきた”（音楽劇）が400名を超える合唱団により、生協“虹のひろば”で初めて歌われました。その歌声は会場全体に響きわたり、3,000人を超える参加者に大きな感動と新たなエネルギーの出現を感じさせました。その後“ぞう”はまたたく間に全国の生協や市民に広がり、多くの

人々に希望と勇気を与え、翌1993年、全国からの強い要望もあり再び“ぞう”が虹のひろばで歌われました。

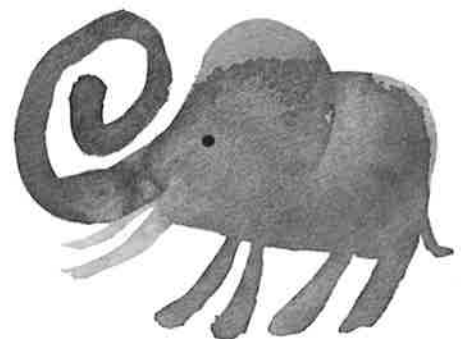
このように“ぞう”は「つくる平和」の新たなアプローチとして登場しましたが、忘れられない出来事があります。1995年1月17日未明、未曾有の災害をもたらした阪神・淡路大震災。全国の生協は素早く連携し緊急物資提供と人的支援を実施し、被災地から大変喜ばれました。

一方、時間の経過とともに子どもたちの精神的ストレスはたまり、徐々に笑顔を失っているという報道が流れました。その話を聞いた全国の“ぞう”の仲間たちが、地元の社会人合唱団やコープこうべと連携

し、現地と全国による合同の“ぞう”の合唱が実現しました。不安な毎日が続く中、子どもたちが大きな声で元気に歌う姿に被災者は励まされ、復興への希望が沸き上がりました。この時、“ぞう”が持っているエネルギーに改めて気づかされました。

そもそも合唱構成“ぞうれつしゃがやつてきた”は、終戦直後、名古屋の東山動物園で生き残った象の実話をもとに作曲された合唱組曲のことです。

戦前の日本には、上野（東京）・天王寺（大阪）・東山動物園（名古屋）の3園で象が飼育されていました。しかし、太平洋戦争のさなか、本土空襲にそなえ、象も含め国内の動物園の動物たちは軍の命令で



多くは殺されてしまいました(または餓死)。名古屋の東山動物園は木下サーカスから4頭の象を譲り受けていましたが、園長や飼育係の命がけの世話で2頭が何とか生き残りました。

終戦時、国内で生き残った象は、東山動物園の2頭だけです。その話を聞いた東京の子どもたちが「大好きな象が見たい」と東山動物園へお願いに行きました。子どもたちの願いは届き、国鉄(当時)の列車が運行されました(第1陣、1949年(昭和24年)、1400人の子どもが参加)。その後、戦後の廃墟と絶望のなかで、全国各地から大勢の子どもたちが東山動物園を訪れ、明日への希望につながっています(NHK放送)。

やがてその史実にもとづき絵本となり、その絵本を題材に、1986年、演技をつけた合唱構成“どうれっしやがやってきた”が作曲されました。11曲からなる合唱組曲で約40分要します。曲はおぼえやすく、3歳〜70歳代の老若男女が楽しく歌え、歌を通して飼育係の動物への愛情と勇氣

に感動し、命の大切さや戦争のない平和な日常の尊さを感じ取ります。

現段階の国際社会はウクライナ戦争で多くのこともや一般市民が犠牲になり、世界は分断と覇権争いが激しさを増し、核兵器使用リスクは最高に高まっており(ストックホルム国際平和研究所)、国際秩序が大きく変わろうとしています。国際秩序の変化という点では30年前の危機とよく似ています。30年前と重ね合わせ改めて思うことは、時代は再び“どうの合唱を要請しているのではないかということ”です。“どう”は人間が本来もっている優しさや愛情といった根源的な特性を高揚させ、大きなうねりをつくり出すエネルギーをもっています。

さて、県内生協の日常的な「つくる平和」は、被爆の実相の継承・被爆ピアノコンサート・碑めぐり・虹のコーラス・カレンダー作製(折り鶴リサイクル)・平和行進・ピースナイター・核兵器廃絶・市民の集いなど戦場や地域で多様に展開されています。ここで二つの事例を紹介します。

広島医療生協は40年以上前から入協

2年目の職員が組合員と共同し被爆証言を冊子にまとめ毎年発行しています。被爆体験を聞き取り、命の重みに気づく若い世代は今度は次の世代へと継承します。「つくる平和」が確実に組織の中に浸透し文化として育っています。

また昨年創立50周年を迎えた生協ひろしまは、県内各地で“被爆ピアノコンサート”を開催しています。被爆ピアノの演奏、合唱、被爆の証言、被爆ピアノを蘇らせた調律師の思いを語っていただくなどが主な内容ですが、アットホームな雰囲気で開催

されるコンサートは参加者からは多くの感動の声が寄せられています。まさに“被爆ピアノコンサート”は現代のニーズにマッチした新たな「つくる平和」として登場してきました。

生協は戦後一貫して“平和とよりよい生活のために”をスローガンに幾多の困難を乗り越え現在に至ります。私たちの日常の「つくる平和」は、“一滴に過ぎませんが、多様な団体や行政との連帯を広げることにより、やがては“大河のごとく大きな流れになることを信じ、日々邁進しています。



新型コロナウイルス感染症のため、4度延期され、ロシアがウクライナを侵攻、米中間題など、厳しい環境の中開催されたNPT再検討会議。

「核兵器が使われるリスクは冷戦期より高まっている。」ロシアのウクライナ侵攻が続く中、ストックホルム国際平和研究所が警告を発した。ロシアによるウクライナ侵攻で核兵器の脅威が顕在化した今こそ「世界の安全保障の柱」としての条約の意義を再確認する必要がある、核のリスク低減措置や原子力の平和利用の分野で具体的な成果が求められる。

そのような厳しい情勢の中、NPT再検討会議に初めて参加した。

日本原水爆被害者団体協議会（以下、日本被団協）の代表4名（被爆者3名、事務局1名）の活動をサポートする形で日本生協連3名、広島県生協連1名、長崎県生協連2名の生協から6名、全体で10名の代表団で参加した。

被爆者の皆さんを支えるつもりだったが、核兵器廃絶に向けての強い思い、訴えるパワーに圧倒され、生で聞く被爆の実相、世界への訴えに感銘を受けた。

核保有国の英国政府代表との会談では、核兵器は増やさない、減らす努力をすると言われたことに対し、日本被団協の木戸事務局長は「減らすだけではダメだ、0にしなければダメだ」と一喝。この熱い揺るぎのない言動には心打たれた。この思いを引き継いで、核兵器廃絶を目指さなければならない、と決意を新たにした。

また、中満泉国連事務次長兼国連軍縮担当上級代表を表敬訪問した際には、被爆者としてサーロー節子さんも同席された。お二人にお会いできたことは、自分の財産になった。中満代表の話では、NPTは順調なスタートを切ったと言われ、最終文書が採択されることを願っていたが、結果的にロシア一国の反対により採択できずに会議は終了した。

今回のポイントは、①核兵器の非人道性を最終文書に記載する。②核兵器保有国は非核兵器保有国を攻撃しない。③核兵器の先制不使用、④核兵器禁止条約の意義を認めて最終文書に記載することであり、橋渡しの立場をとる日本政府の動向にも注目したが、首相として初めて参加した岸田文雄総理大臣のスピーチでは、非人道性にも言及せず、軍縮を強く迫ることもなく、残念な結果になった。しかし成果もあった。

今回の派遣で、得た情報、体感したことをもとに、日本被団協、広島県被団協等、市民団体とともにより一層、核兵器廃絶に向けての取り組みを推進していく決意を新たにした。

● 今回の派遣目的

- ① 日本被団協のNPT再検討会議への参加と現地活動と同行し、被爆の実相を広げる取り組み・各方面での要請行動等、被爆者の活動をサポートする。
- ② 現地での活動を記録し、全国の生協及び日本社会に知らせ、日本国内での平和活動への理解と共感を広げる。
- ③ ピースアクションと連携し、生協の平和活動を広げ、核兵器廃絶の実現につながるように活動する。

	午前	午後
8月3日(水)	イギリス政府要請 一般討論傍聴	オーストリア政府要請 国連軍縮部(中満上級代表)要請
8月4日(木)	メキシコ政府要請 日本政府(小笠原一郎軍 縮大使)要請	ドイツユースとの交流、ピースアクション 分科会(テクノロジーでつながる平和活 動) 24:30~ヒロシマ虹のひろば
8月5日(金)	原爆展(セレモニー)・被 爆証言	NPT再検討会議NGOセッション 広島・長崎インターフェイス平和の集い
8月6日(土)	「テクノロジーでつなが る平和活動」展	(PCR検査)
8月7日(日)	ニューヨーク仏教会での 被爆の証言	聖ヨハネ大聖堂での被爆証言 24:30~ナガサキ虹のひろば

NPT再検討会議とは

核兵器の不拡散に関する条約(Treaty on the Non-Proliferation of Nuclear Weapons : NPT)の運用方法を5年ごとに見直す会議

- 「核不拡散」「核軍縮」「原子力の平和利用」を目的とする。
- 1968年7月1日に署名開放され、1970年3月5日に発効(日本は1970年2月署名、1976年6月批准。)
- 締約国数は191か国・地域(2021年5月現在)。



報告者
広島県生活協同組合連合会
事務局長 福島 守

被爆の実相を広げる取組



ドイツの青年たちへの証言活動



テクノロジーでつながる平和活動展



聖ヨハネ大聖堂のチャペルでの証言活動



仏教会での証言活動



広島・長崎インターフェイス平和の集い



広島・長崎インターフェイス平和の集い

進めよう!核兵器廃絶への道

～NPT(核拡散防止条約)再検討会議派遣報告～

INニューヨーク

8月2～9日

要請・懇談・報告活動

8月3日(水)



英国政府国連代表部への要請

今回懇談した唯一の核保有国の代表です。日本被団協木戸季市事務局長は、「どんな理由があっても核兵器は使ってはいけません。世界中の人々が安心して暮らせるよう努力して欲しい。」と要請文を手渡しました。生協連からも「核保有国も非核保有国も核兵器の非人道性について認識を一致させ、核軍縮を進展させて欲しい。」と訴えました。対応した英国政府代表は被爆者の核兵器廃絶の取り組みに敬意を払いながらも「この間NPTの成果として核兵器の数そのものは減少し、一定の成果はあがっている。イギリスも核兵器を減らしてきた。」と述べました。



オーストリア政府 一等書記官との懇談

オーストリアは先般の核兵器禁止条約締結国会議で大きな役割を果たしました。そのことへの感謝の意を伝え、「オーストリア政府のような非核保有国とともに手を取り合って核兵器廃絶に向けて取り組んでいきたい。」とメッセージを伝えました。オーストリア政府代表は、「自分は戦争を経験していないが、被爆者の方の思いを受け取ってこれから仕事をしていく」と述べました。非核保有国の前向きな発言に希望を見出せました。



国連軍縮部 (中満上級代表)への訪問

NPT再検討会議の成功と核兵器廃絶への力添えをいただくため、中満泉国連事務次長兼軍縮担当上級代表を表敬訪問しました。サーロー節子さんも参加。日本被団協和田征子事務局長から中満代表に、被爆者に寄り添った理解ある言動への感謝を伝え、中満代表からは、被爆者への労い、核兵器の恐怖や体験を発信していただいていることへの感謝をいただきました。



メキシコ政府代表への 要請

核兵器禁止条約締結国会議の次回議長国メキシコ政府の軍縮担当大使とお会いしました。木戸事務局長から、メキシコ政府の貢献へ感謝し、大使からは、被爆者の活動やNGOの活動の意義深さを強調したうえで、「若い世代への教育や、政府とNGOとの懸け橋になれるよう尽力する。」という心強いお言葉をいただきました。



軍縮会議日本政府代表部 との面談

国連日本政府代表部事務所で要請を行いました。木戸事務局長は、総理大臣が参加して演説を行ったこと自体は評価しつつ、具体的に何をするのが曖昧だと指摘しました。和田さんは「核兵器禁止条約に言及してほしい」。小笠原一郎大使は、「広島出身である岸田総理は、核なき世界に向けて熱い思いを持って取り組んでいる。目指すものは同じだ。核兵器廃絶のためのプロセスを作る必要がある」と淡々と語りました。



8月5日(金)

原爆展

国連本部ロビーで原爆展が開催されました。この原爆展は、写真などを通して被爆者の体験を伝えるとともに、70年以上活動してきた被爆者の取組を紹介しています。この原爆展示パネルは、2019年に全国の生協へ呼び掛けた「2020年NPT再検討会議・被爆者活動支援募金」へ寄せられた1600万円余の募金を使って制作されたものです。オープニングセレモニーでは、田上富久長崎市長、広島市長の代理として小泉崇広島平和文化センター理事長、木戸事務局長が挨拶。木戸事務局長は被爆した当時を振り返って「遺骨も分からない。それまで生きてきた人間の全てが消された。」と核兵器の非人道性を強調されました。今回のNPT再検討会議議長のスタヴロ・スラウビネン氏(アルゼンチン大使)も登壇し、「広島、長崎への原爆投下は、人類への投下だ」と述べました。原爆展には多くの方が来場し、被爆者の話に耳を傾けていました。

● 2022年NPT再検討会議を終えて

8月1日から始まったNPT再検討会議は最終日の会合が8月26日に開かれた。この全体会合でスラウビネン議長(アルゼンチン)は合意をめざしてきた「最終文書」について「残念ながらただ1つの国が異議を唱えている」と述べ、全会一致での合意には至らず、「最終文書」は採択されなかった。再検討会議が前回7年前に続いて合意に至らなかったことで、世界の核軍縮がさらに停滞することが懸念される。

● 今回のNPT再検討会議での成果

最終文書は採択されなかったが、成果もあった。

成果①圧倒的多数の国が米英仏中ロの核保有5カ国に核廃絶へ具体的な行動を起こすよう迫り、「核兵器の禁止・廃絶」を求める世界のうねりを鮮明に示す会議になった。

成果②採択されなかったとはいえ、ロシアを除く全ての締結国が異議を唱えなかった最終文書案には大きな意義があった。

● これからの課題

大切なのは、今回のNPT再検討会議の成果及び明確になったことを認識することと、そこから導き出される「道筋」を整理して課題化することである。

- ・核兵器禁止条約の署名・批准を推し進めること
- ・核兵器廃絶の世論を大きくしていくこと
- ・被爆の実相(非人道性)を伝え続けること
- ・核抑止論の矛盾を明確にすること
- ・唯一の戦争被爆国である日本が「核の傘」から脱却すること

8月4日～5日の2日間、広島県生協連と日本生協連の共催で「2022ピースアクションinヒロシマ」を開催し、8月7日～8日開催の「2022ピースアクションinナガサキ」と合わせ、全国から累計9,100人が参加しました。新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、オンラインによる参加をメインにしながらも、虹のひろばは広島県内からの実参加もありました。

被爆から77年を迎えた今年は、「ヒロシマから平和な未来を～被爆77年 戦争も核兵器もない世界を次世代へ～」をテーマに、戦争も核兵器もない平和な世界を求めるといふ願いを世代を超えて交流・共有するために、私たち一人ひとりが行動することをめざして企画しました。



8月4日(木)

プログラム

※分科会はオンラインで配信し、虹のひろばは県内参加+オンライン配信をしました。

8月4日(木)	
分科会① 被爆の証言	山田寿美子さん
分科会② 被爆体験詩の朗読会	演劇集団ふらっとの被爆体験詩の朗読をお聴きしました。
8月5日(金)	
分科会③ デジタルアーカイブで記憶を未来へ	東京大学大学院・(株)ユーカリヤにCO・OP PEACE MAP等の説明をしました。
虹のひろば 場所: JMSアステールプラザ広島 中ホール	安佐北シンフォニック・ウィンズによるクラリネットアンサンブルによるオープニングの後、広島市長・長崎市長からの挨拶、山本定男さんの被爆体験の証言、基町高校の原爆の絵作成活動、安田女子大学の書道パフォーマンス、NPT再検討会議参加メンバーからの現地報告、平和企画検討会議メンバーからの発表、被爆ピアノとともに虹のコーラスの合唱などが行われました。

特設サイト(6月から完成し次第随時公開)

企画名	内容
被爆の証言や室内碑めぐりガイド等の動画公開	広島では新たに箕牧智之さん、小倉桂子さんによる被爆証言映像を作成し公開しました。
継承動画の公開	2021・2022年のピースアクションinヒロシマ・ナガサキの被爆の証言・平和の紙芝居などの動画を公開しました。
碑めぐり動画の公開	碑めぐり動画およびクイズを掲載しました。 2022年度も生協ひろしま碑めぐりガイドの協力で「本川小学校」「広島二中慰霊碑」「原爆の絵碑」を新たに収録しました。 ○オンライン碑めぐり動画 https://www.youtube.com/watch?v=gHvKk7C1EFM ○平和記念公園の「碑」動画(生協ひろしま) https://www.hiroshima.coop/activity/peace/
広島市立基町高等学校作品ギャラリー	「次世代と描く原爆の絵」を掲載しました。
メッセージ投稿キャンペーン	全国のご参加者から平和メッセージを投稿していただきました。



2歳の時に爆心地から約2kmの地点で被爆し、原爆孤児になられた山田寿美子さんの証言。



演劇集団ふらっとによる被爆体験詩の朗読

特設サイトで平和学習



8月6日(土)

子ども平和会議



「ヒロシマ」と私たち

2022年8月7日
子ども平和会議
中村園美

【特集】ピースアクション inヒロシマ開催!!

8月5日(金)

アクション in ヒロシマ 虹のひろば

主催：広島県生協連・広島県生協連協議会



生協ひろしま虹のコーラスによる合唱



松井広島市長



田上長崎市長



NPT再検討会議参加者報告



山本定男さんと基町高校生徒



平和企画検討会発表



ロビーでは生協ひろしま組合員の平和への想いが描かれた「うちわ」が展示されました。

虹のひろば

オープニングは地元広島のみ市吹奏楽団『安佐北シンフォニック・ウインズ』によるクラリネットアンサンブルで、平和な未来への想いを込めた吹奏楽の演奏で始まりました。

主催者を代表し、嶋田裕之日本生協連代表理事統括専務から、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻に触れつつ「戦争も核兵器もない世界を次の世代につなげるために共に考えあいましょう」との挨拶が述べられ、来賓挨拶では、松井一實広島市長から「重要なのは、もうこんな思いを誰にもさせてはならないという被爆者の思いを自分のものとして受け止めて、日常生活の中で、平和への思いを共有する文化を根付かせていくことです。核兵器廃絶とその先にある恒久平和の実現にむけてともに歩みを進めようではありませんか」と述べられ、田上富久長崎市長のビデオメッセージでは「ウクライナに侵攻したロシアが核兵器の使用を示唆したことにより私たちが核兵器の脅威から逃れるためには、核兵器そのものをなくすしかないということがはっきりしました。核兵器のない世界への思いを同じくする大切な仲間として共に平和への道を歩んでいきましょう」と訴えられました。

その後、被爆者の山本定男さんの証言をお聞きし、山本さんの証言をもとに広島市立基町高校の生徒が描いた絵も紹介されました。そのほか、安田女子大学及び安田女子高校生徒による書道パフォーマンスが動画やインタビューなどで紹介され、生協の若い職員が進められた平和企画検討会活動報告がありました。また今回は、8月1日からニューヨークの国連本部で開催されているNPT再検討会議へ被爆者と共に参加している生協職員と生中継で繋ぎ、現地の様子を紹介しました。

最後に、被爆ピアノでの伴奏による「生協ひろしま虹のコーラス」のみなさんの合唱で締めくくりました。

来年は全国からの実参加が実現できるよう準備をすすめていきます!

(報告:広島県生協連 渡辺とおる)

「虹のコーラスがとても良かったです。ウクライナの民謡を聞いて、涙が止まりませんでした。世界中が平和になりますように。」(広島県の組合員)

「戦争を知らない私達が、これから伝えていかなければならない事を、今回視察しながら感じました。できるアクションをしていきます!」(北海道の組合員)

和の取り組み

市民6団体による原爆死没者慰霊碑への献花を行いました

8月4日(木)、広島平和記念公園にて、市民6団体による、原爆死没者慰霊碑への献花式を行いました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、2020年度から中止されていた市民平和行進を3年ぶりに開催するため、行進コースやプログラムを改善するなど準備してきましたが、新型コロナ第7波による感染者数が予想を上回る状況で拡大し、医療現場の困窮やクラスター発生などが相次いだため、市民平和行進は中止とし、献花式のみ行いました。

8月6日の平和記念式典の開催準備が進められる平和記念公園で、広島県原爆被害者団体協議会箕牧智之理事長、広島県原爆被害者団体協議会古田光恵副理事長、広島YMCA竹井幸義総主事、広島県生協連岡村信秀会長理事が代表して慰霊碑に献花し、核兵器のない世界が訪れることを願いつつ、鎮魂の祈りを捧げました。

今年は、市民平和行進の日本海コース横断幕を持って島根県生協連から矢倉淳会長理事、澤江照明事務局長、長崎県生協連から石原茂副会長、南明久専務スタッフも参加し、四国の組合員から託された“しこくピースアクションリレー横断幕”もいっしょに参加者全員で核兵器廃絶への決意を新たにしました。

(報告:広島県生協連 渡辺とおる)



花輪を持って



黙祷



しこくピースアクションリレー・日本海コースの横断幕と参加者全員

折り鶴を原爆の子の像に献納、虹のひろばもWebで参加!(福山医療生協の取り組み)

8月4日(木)、福山医療生協職員のみで折り鶴を、広島平和公園内の原爆の子の像に献納しました。3年連続のコロナ禍で、組合員さんといっしょに「虹のひろば」に参加出来ないため、デイサービスすみれの利用者が折った鶴や、各支部班会で折った鶴を献納しています。

組合員さんから、早くコロナ感染が収束し、みんなで「虹のひろば」に参加して、自分たちで献納したいと託されました。

8月5日(金)に開催された「虹のひろば」は、ふれあい診療所2階にて、12名がWeb参加しました。視聴した組合員さんから「この集会を多くの方に見ていただきたいです。」「クラリネットの演奏、大筆のパフォーマンス、被爆証言、虹のコーラスの歌声等良かった」との感想がありました。

(報告:福山医療生協 花岡利明)



献納された折り鶴



虹のひろばをみんなで視聴



福山の組合員の思いを胸に

2022年 平



ピースナイター2022開催!!

主催: 生協ひろしま、中国新聞社、広島平和文化センター、
広島電鉄、中国放送、広島東洋カープ

8月6日(土)ピースナイター2022を開催しました。核兵器廃絶と戦争のない世界の実現に向けたメッセージを被爆地広島から発信していく目的で、2008年から始まったピースナイターは今年で15年目を迎えました。新型コロナウイルス感染症の終息とはなりませんでした。観客動員数に規制はなく、3年ぶりにピースナイター新聞を配布。5回裏に観客全員で「ピースライン25」を表現しました。その他、広島県知事や広島市長、始球式を行った佐々木リョウさん、組合員4組からの平和のメッセージ、高校生による平和のパフォーマンスを大型ビジョンで放映しました。監督・選手・審判等の袖には2022年デザインのピースワッペンを貼り付け試合が行われました。

(報告: 生協ひろしま 柏原 民季)

「国際平和デー」核兵器廃絶と世界恒久平和実現を祈念

国連では、毎年9月21日を「国際平和デー」と定め、世界の停戦と非暴力の日としてこの日一日敵対行為をやめるよう呼び掛けています。

その記念行事(広島平和文化センター主催)に2つの広島県原爆被害者団体協議会と平和活動に取り組む高校生(広島女学院中学高等学校)、国連ユニタール広島、広島県生協連が参加。原爆死没者慰霊碑に献花を行った後、「核兵器廃絶に向け平和への潮流を上げよう!」という平和首長会議の横断幕を掲げ、慰霊碑に献花を行い、「平和の鐘」を打ち鳴らす中(広島県生協連が打鐘)黙とうを捧げ、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を祈念しました。2012年から続く行事で広島県生協連は2013年から参加しています。

広島平和文化センター小泉崇理事長か

らは、ロシアによるウクライナ進行及びNPT再検討会議において最終文書の発行が出来なかったことについて触れ、「核の脅威が高まっているこのような時だからこそ、平和首長会議は市民といっしょに核兵器廃絶を訴え続けていくことで平和への大きな潮流をつくり、絶対悪の核兵器を廃絶し、恒久平和を実現していきましょう」と挨拶がありました。

今年はコロナ禍の中での取り組みだったことから、各団体からの参加人数を削減しました。

広島県生協連から、岡村会長理事、横山副会長理事、福島事務局長、上原事務局、渡辺事務局が参加しました。

今後も広島市(広島平和文化センター)の取り組みに協力し、連携を大切にして、核兵器廃絶を訴えていきます。

(報告: 広島県生協連 渡辺とおる)



全体風景



平和首長会議の横断幕



岡村会長理事による献花



参加者全員による黙祷



平和の鐘を打鐘

第37回中四国生協・行政合同会議(徳島会場)が開催されました。

10月6日(木)、徳島グランヴィリオホテルにて「第37回中四国・行政合同会議」が開催されました。中四国の生協と行政がコミュニケーションを深め、暮らしをめぐる課題について力を合わせて取り組んでいくことを目的に、毎年開催場所を各県持ち回りで進めています(2021年度は広島県)。コロナ禍のため、実参加とZoomを活用したWEB参加によるハイブリッド開催となり、全体で78名が参加しました。現在、食品や日用品をはじめ、医療費の値上げ、年金金額の引き下げなど、消費者の暮らしは益々厳しい状況になっています。地域に関わる行政・生協・団体が一緒になっ



「広島県における包括的連携協定実践報告」生協ひろしま高浦常勤理事(左) 生協ひろしま横山理事長(右)、広島県生協連事務所からWEB参加



日本生協連小泉常任理事 開会の挨拶

て「誰一人取り残さない」「誰もが安心して暮らし続けることができる可能な社会」を実現することが大切です。「SDGsとつながろう協同の力で」というテーマのもと、生協及び行政からの活動報告を参加者全員で共有し、今後も力を合わせて取り組んでいくことを確認しました。日本生協連小泉信司常任理事の開会挨拶から始まり、消費者庁新未来創造戦略本部次長 相本浩志様より「消費者志向経営について」と題し特別報告があり、生協ひろしま高浦美穂常勤理事からは広島県全市町と提携した「包括的連携協定」の内容と実践例についての報告がありました。



消費者庁新未来創造戦略本部 相本浩志次長からの報告



WEB参加の様子

広島県生協連からのお知らせ 第49回広島県生協大会のご案内

今年度は昨年度同様、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、Zoomによるオンライン参加を含めたハイブリッド方式で開催します。国連が提唱している持続可能な開発目標(SDGs)を軸に、「助けあいの精神」を基本とした「協同」の力を発揮し、地域の中で協同の輪を広げていく必要があります。特別講演では、「持続可能な地域社会づくり、地域コミュニティの実現」に向けて広島市が

策定した「広島市地域コミュニティ活性化ビジョン」について、松井広島市長からその知見を深掘して頂きます。また、ワーカーズコープ「協同労働」によるまちづくり、地域活性化の実践事例について学びます。併せて、核兵器を取り巻く世界情勢等、平和首長会議の取組について学ぶとともに、今夏のNPT(核拡散防止条約)再検討会議への派遣報告により、今後の活動についても考えていきます。

- 日 時 2022年10月20日(木) 13時~15時
- 場 所 ワークピア広島4階芙蓉及びZoomによるオンライン
- 参加者 会員生協役職員、組合員リーダー、友誼団体等
- 開催内容・スケジュール(予定)

特別講演 <講師>広島市長 松井 一實氏

テーマ:「広島市の地域コミュニティ活性化施策・核兵器廃絶に関する動向」(仮題)



2021年度広島県生協大会風景

	テ マ	報 告 者
報告①	協同労働でまちづくり(ワーカーズコープ(仮題))	「協同労働」プラットフォーム統括コーディネーター 小暮 航氏
報告②	NPT再検討会議派遣報告	広島県生協連事務局長 福島 守

オミクロン株に対応した2価ワクチンの接種が開始されました!



Q オミクロン株対応ワクチンが、
従来のワクチンと異なる点は何ですか?

A オミクロン株対応ワクチンは、コロナウイルスのオミクロン株と
従来株の両方の成分を含む2価ワクチンです。

現在流行しているオミクロン株に対応した成分が含まれるため、従来ワクチンを上回る
重症化予防効果や、持続期間が短い可能性はあるものの、感染予防効果や発症予防効果
も期待されます。

接種の対象者

初回(1・2回目)接種を完了した12歳
以上の全ての方

※初回(1・2回目)接種がまだの方は、従来型ワ
クチンによる接種を完了してください。

接種間隔

最終接種から5か月以上

※2022年9月14日時点。接種間隔の短縮等につ
いて、国において検討が進められているた
め、変更の可能性があります。

接種時期や接種券については、
お住まいの市町の情報をご確認
ください。



新型コロナワクチンの詳しい情報は、広島
県のホームページでも発信しています。

広島県 コロナ ワクチン

検索

使用するワクチン

2価のオミクロン株対応ワクチン	1・2回目接種対象者	3回目以降の接種対象者
ファイザー社ワクチン	×	12歳以上の方
モデルナ社ワクチン	×	18歳以上の方

新型コロナウイルスワクチンの接種は強制ではありません。周りの方に接種を
強制したり、様々な理由によってワクチンを接種できない方や接種を望まない方
に対し、差別的な対応をしたりすることがないように、お願いいたします。

【お問い合わせ先】

広島県新型コロナウイルスワクチン
接種相談窓口(コールセンター)

「消費者トラブルの手口を知りましょう」② 適格消費者団体NPO法人消費者ネット広島

インターネットを悪用した詐欺などの被害が後を絶ちません。消費者トラブルは身近なところに存在しています。情報を知り、被
害にあうことがないように、また被害にあったときの対処法について、日頃から備えておきましょう。

返品、解約は困難? ネット通販のトラブルにご注意

相談内容

ネット広告で冷風機を代引きで注文した。ネットで見
た画像では人間と同じくらいの大きさだったが、届いた商
品は小さな扇風機だった。注文した業者は分からず、連
絡も取れない。他県の配送センターから届いたが、元は
外国から届いたようで、履歴も残していなかったため、
配送センターの電話番号しかわからない。配送センター
に電話したが、コール音のみで出ない。クーリング・オフ
できないか。(50歳代 女性)
(広島県生活センター発行 暮らしのフレッシュ便 令和4年8月号より)

アドバイス

相談者には、ネット通販は法律により、クーリング・オフの
適用外で業者の定めた返品特約が優先されると説明しま
した。また、同様のトラブル事例を情報提供し、通販業者
と連絡が取れない場合で、代引きで支払いをした時は、
領収書に記載の業者に連絡するように助言しました。

トラブルを防ぐためのポイント

○ 注文時の画面や広告画面を保存しておきましょう。

商品を注文する際には、契約内容を確認するために、注文
時の画面や商品の広告画面などは、スクリーンショット機能
を使って保存しておきましょう。また、事業者に連絡を行った
場合も記録を残しましょう。

○ インターネットを含む通信販売では、
クーリング・オフ制度はありません

返品や解約の条件をそれぞれの事業者が決めて広告に表
示していれば、その内容に従うことになります。返品や解約
の条件をしっかりと確認しましょう。

お困りの際は最寄りの消費生活センター
(☎188)にご相談ください。



NPT再検討会議に参加して、世界にヒロシマの声を届けることの重要性を再認識。

広島県原爆被害者団体協議会理事長

さくま くにひこ
佐久間 邦彦



生後9か月の時に、爆心地からおよそ3キロの地点で被爆。黒い雨に打たれたことから幼少期に大病を患う。1964年に東京へ移住するも広島へ帰り三菱重工へ就職。平和への関心が高かったことから、2006年に広島県原爆被害者団体協議会(被団協)の被爆者相談所でボランティアを始める。2015年、金子一士さんから理事長を引き継ぎ、被爆者代表として活動が続けている。

ロシア代表団と懇談

NPT再検討会議が始まって5日目、ロシア代表の方と話をすることができました。私はウクライナ侵攻にあたり、プーチン大統領の「核兵器使用も辞さない」という発言がいかに恐ろしいものであるかを理解してもらいたいと思い、私自身の被爆体験を一生懸命に話しました。ロシア代表団は私の話を最後まで聞いたあとで「これまでヒバクシャの生の話を聞いたことがなかった」と話してくれました。

NPT最終文書はロシアの反対により採択されませんでした。このロシア代表団の一言で、核兵器廃絶を実現するためにはヒバクシャの声を発信し続けることが大切なのだと感じました。

NPT再検討会議の成果

ロシアの強硬な反対により世界の核軍縮がさらに停滞することが懸念されます。しかしながら核を持たない国の

「会議決裂の責任はロシアにある」「合意困難に強く失望」「引き続き糾弾する」という強い非難が、核保有国をたじろがせる場面がありました。

核兵器の恐ろしさは、ヒバクシャにしかわかりません。ヒロシマがどう発信していけばいいのか。私は世界の人々に、ヒロシマの資料館やヒバクシャの証言、遺構など見て、聞いてもらうことが重要だと思っています。ロシアのプーチン大統領にはぜひヒロシマを見てもらいたいです。

若い人たちを育てていく

ヒバクシャの高齢化が進んで、大きな課題になっています。私たちの世代が苦勞して築いてきた平和への道筋を若い世代に引き継ぎ伝えながら、これからは若い人たちが一緒に取り組んでいきたいと考えています。若い世代、そして広島県生協連と連携しながら、ヒバクシャの声を届けていきたいと思っています。

編集後記

NPT再検討会議の最終文書はロシア1国の反対で採択できなかったことに対し、とても残念に思うのと同時に、今回の会議でたくさんのことが明確になり、これからの方向性が見えたことを「確信」として取り組んでいきたいと思いました。特に、「圧倒的多数の国が“核兵器の禁止・廃絶”を求めていること」「核抑止力論は誤りであること」「核の傘にいる日本では、“橋渡し”は出来ない。説得力がない。唯一の戦争被爆国である日本が何を発信するかが大きなポイントになるということ」。大切なのは、国内の世論をしっかりをつくっていくことで、日本政府の姿勢を変えること。大きな話ではなく、目の前にいる一人ひとりの想いを変えていくことだと思いました。(渡辺)

cocom

広島県生活協同組合連合会広報誌
「C・COM」vol.85号

〒730-0802 広島市中区本川町2-6-11 第アウエノヤビル5F TEL:082-532-1300
FAX:082-232-8100 URL: <http://hiroshima.kenren-coop.jp> e-mail: kenren.h@proof.ocn.ne.jp